

日本あちこち河川遡行記（第291回）

奈良1-8. 寺川（その2） 令和1年10月4日（金） 晴



01.今回調査区間位置図

金曜日、本来の遡行に出かける曜日で、今日も寺川に出かける。新大阪から乗ったメトロの車両は御堂筋線では一番新しい30000系で、扉の上の案内装置の半分に最新式の駅ホームの昇降設備の種類と位置が駅進入時に現れる。前から気になっていたのが混んだ車内から主要駅をカシャ。一番混む梅田駅、大阪のオフィス街の中心の本町駅、そして何度も降車した難波駅を捉えた。3駅の階段、エスカレータ、エレベータの数は、次のとおりである。



02.30000系地下鉄車両の駅案内（梅田）



03.本町は多分日本一昇降設備が多いだろう



04.いつも8号車後ろからエスカレータに向かう

駅名	階段数	エスカレータ数	エレベータ数
梅田	5	2	2
本町	8	2	2
難波	3	3	2

昭和初期に開通した地下鉄にもかかわらず、10両編成、日本一利用者の多い地下鉄路線の主要駅の昇降施設数である。特に本町駅の階段の多さにはビックリである。願わくばエスカレータを増やしてほしいものだが・・・。

難波駅から乗ったのが奈良行き快速急行だったので行きは西大寺経由として鶴橋では乗り換えずにおく。奈良行き急行に乗るといつも中国系の旅行客のグループと出会う。大きなトランクを持って日本橋から乗ってくる。駅近くにリーズナブルな宿泊施設が有るのだろう。古代中国の余韻を残した奈良は彼らのお気に入りの観光地なのだろう。粉な物の特異な食べ物とフレンドリーで派手な大阪、日本情緒漂う京都、古代中国を想起する奈良と関西は3者三様の短期日で巡れる絶好の観光地である。

大和西大寺から橿原行き急行に乗り換え10時45分、橿原線田原本駅到着。すぐ駅前の町の観光案内所に入る。レンタサイクル用の自転車が並んでいる。ネットで調べた時には無かった電動アシストも有るでないが！料金は時間制で3時までの利用として900円也。今日の午後観光協会の会議が有るので本来は返す時に料金を支払うシステムであるが、店を閉めてしまうので3時までの利用として先払いにし、返納は向かいのタクシー会社の営業所にして出発進行！

町の中心部を通り東の川に向かう。この田原本町の古い街並みの道は狭く、角では道がズレた今井町や富田林の寺内町と同じである。



05.田原本町駅前の観光案内所へ



06.田原本も道は鍵型にズレている

2日前に見た橋の上流側の橋から調査を開始し、左岸側の土手の道路を南に進む。今日は台風18号が日本海を東に進んでいるので西風が強く吹き涼しいぞ。

「秦の庄橋」、「千宮橋」、「興仁橋」と今までお目にかかったことの無い珍しく、奈良らしい名前の橋に出会う。「興仁橋」の両側の歩道と車道との間に防護柵が設置されている。見た目にも心強い安全な柵である。良き策だぞ！



07.「興仁橋」の歩道と車道の間には防護柵が

快調に3キロほど南に進み田原本町から橿原市に入り寺川は南から直角に変針し、東からの流れになる。東西南北に区画割された条里制を付度した川の流れである。南からやって来たのは支流の「米川」で耳成山の北側からの流れである。合流点付近の河原は夏草とススキが繁茂し川面が見えない。



08.寺川はここで直角に曲がり東からの流れに

直ぐに国道 24 号に行く手を止められる。この国道は天理市北西部から橿原市葛本までなんと 10km も本当の南北を一直線に走っている。平たんな平野で周囲がみんな真の南北を向いているので出来ることだ。国道 24 号を越えると土手に道は無く、北側の市道を東に進み橋際に来ると右折して橋を見、再び市道に帰ることを繰り返す。アシスト自転車さまさまである。

橿原市から桜井市に入ると×にせざるをえない古い狭い橋に出会う。彼我の彼方には聖なる山、「三輪山 H=467m」が端正な姿をして平野を見守っている。直ぐ近くの平野を東西に横切る広い道の橋の名前は「大仏供橋」。奈良らしいな一。



09.古い橋の向こうに「三輪山」が



10.奈良らしい橋名の親柱は桜

田園から桜井の町に入り国道 169 号バイパスの橋（清剛橋）を越える。次の「幸玉橋」から上流側を見れば左側から支流の「栗原川」が合流している。彼方には桜井市と宇陀市との間を南北に連なる山並みの北端部である。



11.左から支流が合流

この栗原川に自転車を走らせ間違いに気づき元に戻り、右側の川の土手道を南に向かう。すぐに近鉄大阪線の橋に出会う。何とも奇妙てきれつな姿をしている。下路トラスの両側と底面を騒音防止のため覆い、これをトラスにあずけるとトラスが持たないので、トラスの外側に桁を追加しこれに防音壁と床を預けたような構造だ。橋の周囲は住宅がびっしりと密集しており、トラスは橋のなかでも一番音が発生し、拡散し易い構造なので追加したのだろう。これなら初めから PC 箱桁にしておけばよかったのに。



12.近鉄の橋は鎧を付けているぞ

次の JR 桜井線の橋に向かうと橋の手前で行き止まりとなり、桜井の街中をうろろしながら大きく回り込み橋に着く。更に街中を進み国道 169 号の「磐余橋」を見て今日はこれまでとする。磐余とは珍しい名前である。

国道をそのまま北に向かい町はずれで田原本と桜井を結ぶ県道 14 号線に入る。大和平野の道路の大半は東西か南北に通っているが、この県道は我関せずと斜めに桜井と田原本を最短距離で繋いでいる。今日この日のために舞台設定

してくれたような道でサンキュー。

予定よりも相当早く帰って来たので街中を自転車であらゆることにする。前回前を通過した時に興味を持った古い文房具屋に向かう。縦書きの各種PR看板の横に「国定教科書取次販賣所」と白色で書かれた板が際立つ。最近白色で埋め書きしたのである。



13.この店何の店気になる店！

駅の東側の川との間に寺マークの地図記号が並んでいる寺に向かう。広い敷地の南側には真宗本願寺派の「浄照寺」が北側には浄土宗の「本誓寺」が山門を東に向けている。



14.真宗本願寺派浄照寺に立ち寄る



15.石碑に寺の歴史が



16.北隣の本誓寺は浄土宗

途中に田原本の町の発展の歴史を解説した案内板が有る。かつて町のすぐ近くの川港（今里浜という）と難波津との間の舟運と下ツ道などの陸運の中継地として栄えたとある。かつて大和川は上町台地の東側を北流し台地の北端部で淀川に合流していた。今里浜？大阪市東成区の今里だろうか？今の平野川はかつての大和川の流れに近く、平野川は今里の西を流れているので今里が海と川の境だったのだろう。



17.田原本は大和平野のど真ん中で寺川の舟運で発展

3時のつもりが2時にタクシーの営業所に着き自転車を返し駅に向かうと下り電車がやって来て急いで乗り込む。時間を確認すると2日前に乗った電車と全く同じ物に乗っているではないか！

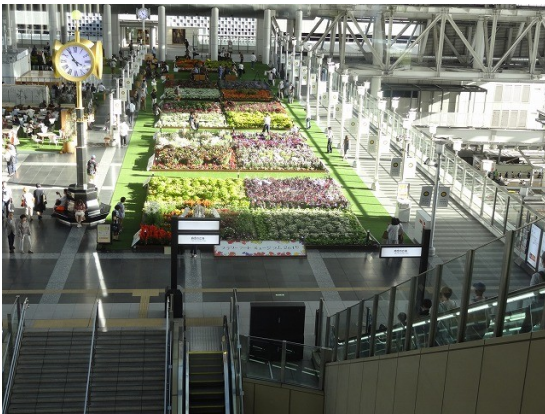
難波、梅田と乗り継ぎ時間がたっぷり有るので大阪駅の北側のレクアで時間調節をする。10階の東西のビルを繋ぐ空中回廊の屋上で涼しい風を受けながら時間が過ぎるのを待つ。かつての梅田貨物駅は大変貌し、現在は新大阪と難波

付近を繋ぐ地下新線の工事中で、北梅田駅と思われる場所でオープン掘削中なのが上から伺える。かつての大阪中央市場や安治川口貨物駅に向かう貨物線を特急「はるか」が通過して行く。大阪環状線福島駅横を通過し、市街地真ん中の踏切を我が物顔で通過しているのだ。



18.梅田貨物駅跡を「はるか」が通過

7階の回廊の上から下を見れば、南側は大阪駅のホームとその上を横断する2階建ての跨線橋が覆い、屋上には花壇も有る。北側は1階まで吹き抜けの大空間が広がる。駅構内は更に上の大屋根で覆われている。駅の南側は基本的に変わっていないが北側は全くかつての面影は無い！京都駅は大変身したが大阪も凄いでっせ！



19.大阪駅の南北を繋ぐ空中回廊に
花壇が



20.大阪駅北口は大変身

本日の歩行（走行）距離：18.0km。調査した橋の数：31。

総歩行距離：10,612.7km。総調査橋数：13,670。

使用した1/25,000地形図：「桜井」（和歌山1号-4）